決算特別委員会を開催

令和４年度の事務事業を慎重に審査

議会は、令和4年度一般会計ほか6特別・3企業会計の決算等を審査するため、10月23日・24日・26日・27日・31日の5日間にわたって決算特別委員会を開催しました。

コロナ禍を抜け、社会経済活動が回復しつつある一方で、市税収入の大幅な増加が見込めない中、大規模な投資的事業や老朽化対策も含めたインフラ整備等を進めていく必要があり、加えて、原油価格・物価高騰等による固定経費が増加し、社会保障関連経費の増大が今後も見込まれるなど、非常に厳しい財政状況が続きます。同委員会では、本市が市民サービスを維持、拡充していく上で、将来にわたって安定した財政運営を行っていくことが不可欠であることから、各事務事業に対して熱心に質疑が行われました。

決算特別委員会委員

（議席番号順）

【委員長】大地正広
【副委員長】田口敬規
【委員】松岡ちひろ　堤幸子　番匠映仁　大津真沙樹　大濱暢祐　小池晶子　岡市栄次郎　志甫直哉　佐田あゆ美　峠賢一　東実名子　一原明美

各会計別決算額

（単位：千円）

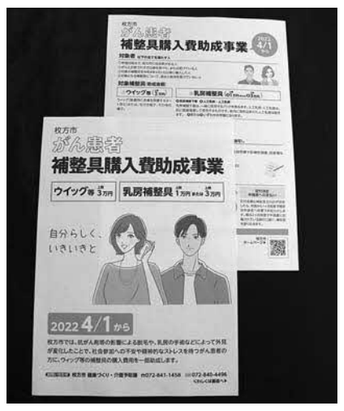
区分		歳入	歳出	翌年度繰越財源	※1 実質収支	前年度実質収支	※2 単年度収支
一般会計		163,698,581	160,458,863	784,945	2,454,773	2,437,277	17,496
特別会計	国民健康保険	40,791,752	40,371,139	0	420,613	486,551	▲65,938
	自動車駐車場	91,768	155,787	0	▲64,019	▲109,483	45,464
	財産区	99,631	99,631	0	0	0	0
	介護保険	35,537,725	34,561,572	0	976,153	953,189	22,964
	後期高齢者医療	7,536,696	7,457,173	0	79,523	71,628	7,895
	母子父子寡婦福祉資金貸付金	56,289	20,112	0	36,177	20,299	15,878

区分		収益的収入	収益的支出	※3 純利益	前年度純利益
企業会計	水道事業	6,523,400	5,410,675	1,112,725	1,560,927
	病院事業	12,285,874	11,056,340	1,229,534	1,586,549
	下水道事業	12,047,660	10,483,312	1,564,348	1,702,146

※1　実質収支は、歳入から歳出と翌年度繰越財源を引いたものです。
※2　単年度収支は、実質収支から前年度実質収支を引いたものです。
※3　純利益は、収益的収入から収益的支出を引いたものです。

患者補正具購入費 がん以外にも拡大を 助成対象を

公明党議員団　一原明美



がん患者補整具購入費助成事業のチラシ

質問　抗がん剤等による脱毛や乳房手術等による外見の変化があった患者へのウイッグ等の購入費助成を要望してきた。市は、4年度からがん患者補整具購入費助成事業を開始したが、実績と内訳を聞く。

答弁　購入費の一部助成を167人、174件実施し、内訳は、ウイッグ等が149件、乳房補正下着が25件である。

要望等　がん以外の治療等で脱毛や外見の変化がある人、先天的な外表性疾患のある人等も助成対象とするよう要望する。

不登校支援協力員 小学校にも十分に配置を

質問　不登校支援協力員配置事業経費で、中学校全19校と小学校7校に同協力員を配置しているが、どのような効果につながっているのかを聞く。

答弁　同協力員は、別室での学習支援や相談、家庭訪問などを行う。登校日数が増えたなどの声もあることから、登校しない、登校できない子どもたちの居場所づくりにつながっていると考える。

要望等　小学校への同協力員の配置は7校と少ない。不登校者数が過去最多となる中、同協力員を必要とする学校を把握し、配置するよう要望する。

児童発達支援 医療的ケア支援 看護師配置費用助成 今後も事業継続を

質問　医療的ケア児等通所支援事業の趣旨、実績及び成果を聞く。

答弁　医療的ケア児等の通所先確保のため、児童発達支援事業所や放課後等デイサービスの事業所に対し看護師配置に伴う費用を助成し、受入れ体制の拡充を促進するもので、3事業所に助成し、30名の受入れにつながった。

要望等　3年度からの3年間で効果測定し事業継続の可否を判断するという。成果や効果が出ており、また、医療的ケア児等が在宅生活する際の介護者のレスパイト支援（＊1）としても、事業の継続を強く要望する。

障害者スポーツの日常化と魅力発信を

連合市民の会　番匠映仁

車椅子ソフトボールの体験を行う様子

質問　障害者スポーツの環境整備に関連し、5年2月に開催したスポーツチャレンジフェスタの内容と今後の展開を聞く。

答弁　パラアスリートによる講演会や車椅子ソフトボール等の体験会を実施した。また、障害者スポーツの実施環境の構築支援事業を日本パラスポーツ協会から受託して競技用車椅子を購入しており、今後も障害者スポーツの促進に向け同車椅子を活用する。

要望等　5年度もパラスポーツやデフスポーツ（＊5）の体験会を行うという。スポーツの魅力発信、日常にスポーツがある環境づくりを要望する。

個々の状況に応じた不登校支援を

質問　不登校の児童、生徒の個々の状況に寄り添った支援を行うことが重要と考える。こうした支援等を周知するために行った具体的な取組を聞く。

答弁　学校以外の学びの場の周知を目的として、不登校支援ガイドや、不登校児童・生徒を支援する民間施設に関するガイドラインを策定した。市ホームページへの掲載、学校への周知を通じ、適応指導教室ルポやフリースクールなど、複数の相談窓口を紹介している。

要望等　子どもたちの選択肢を増やす取組の継続を要望する。

御殿山小倉線整備 家屋調査委託料の内容は

質問　御殿山小倉線整備事業として家屋調査委託料が支出されたが、同調査の内容を聞く。

答弁　同線の整備に当たり、隣接する建物等を対象に、工事の施工で影響を及ぼしていないかを確認するための資料として、事前に現状確認として24軒の家屋調査を行った。

要望等　5年度中に開通記念式典を開催予定という。地域の理解と協力があってこそ開通のめどがついた。感謝の気持ちを表す式典として、心の込もったものになるよう要望する。

留守家庭児童会室 安心できる居場所を 人員確保に努め

日本共産党議員団　堤幸子

留守家庭児童会室

質問　留守家庭児童会室における放課後児童支援員の4年度配置は、市の最低基準を満たすものの、目指す基準からは最大62人の不足が生じたという。人手不足の中、5年度からの総合型放課後事業（＊2）の民間運営委託導入に向け、十分な引継ぎ体制を取ることはできたのか。

答弁　児童との関係づくりに主眼を置き、児童の把握に努めながら引継ぎ保育を実施した。また、管理監督を担う、直営の主任放課後児童支援員が同室の巡回等を行った。

要望等　人員確保に努め、現場からの意見を聞きながら働きやすい職場へと改善し、子どもたちが安心して過ごせる放課後の居場所提供を要望する。

駅周辺市整備 市民を支える施策を

質問　市駅周辺再整備における④街区（＊3）の民間活力導入エリアに対する民間事業者からの提案を受けるため、サウンディング型市場調査を行っているが、調査結果はどのように活用したのか。

答弁　同調査の結果を踏まえ5年6月に市駅周辺再整備基本計画を改訂し、④・⑤街区の市有地を有効活用したまちづくりの考え方をまとめた。

要望等　同調査を経ても、結局、④・⑤街区の具体の内容ではなくイメージを示しただけである。大型開発より市民を支える施策を進めるべきであり、計画の見直しを要望する。

グッミーニングライネー 市施設への愛着が薄れてはならない

質問　4年度に得たネーミングライツ（＊4）料はどのように活用したのか。

答弁　ネーミングライツを取得した企業等から得た貴重な財源は、施設の維持管理や魅力向上のために役立てている。

要望等　収入を増やすための取組は必要だが、市民の財産である公共施設の名称を企業名などにすることで、市民の施設に対する愛着を薄れさせてはならないと意見する。

道路は重要なインフラ 予防保全経費の拡充を

大阪維新の会 枚方市議会議員団　岡市栄次郎

長寿命化計画により舗装された道路
（写真は渚中宮線）

質問　道路は、市民の日常生活を支える大変重要なインフラである。事故の発生を防ぐためには、舗装等の損傷が進行する前に補修を行う予防保全の取組が重要だと考えるが、4年度実績を聞く。

答弁　予防保全のため、主要道路リフレッシュ整備事業として約2億5438万円で3路線を、舗装長寿命化計画事業として約6527万円で4路線を施工した。

要望等　市民の安全、安心の確保、また、長期的には維持管理コストの縮減にもつながる予防保全経費の拡充を要望する。

結婚等新生活支援事業 定住促進に向け年齢要件の拡充を

質問　結婚等新生活支援事業は、若者世帯の定住促進等が目的であり、本市への定住の直接のきっかけとなる事業の一つだが、府内自治体での実施状況について聞く。

答弁　結婚等に対する支援目的で補助金を交付する自治体は、北河内・北摂地域にはなく、本市以外で6市町のみである。

要望等　実施自治体が少なく近隣にもないことは結婚等を機に本市へ人を呼び込むきっかけとなり得るものであり、多くの新婚等世帯に住んでもらえる施策となるよう、年齢要件の拡充を要望する。

子ども大学探検隊事業 夢を育む絶好の機会 定員と年齢の拡大を

質問　市内大学の専門分野のテーマに基づき実施する小学生高学年向けの子ども大学探検隊事業の4年度参加数を聞く。また、定員や対象年齢を拡大すべきだが考えを聞く。

答弁　同事業への参加数は延べ81人だが、各大学の協力の下に成立する事業であるため、意向等も踏まえながら、より多くの子どもたちが参加できるよう、定員の拡大などに向け協議していく。

要望等　同事業は、子どもたちが将来への夢を育む絶好の機会となる大切な取組である。周知も含め事業の推進を要望する。

保育士の確保に向け時流に見合う制度を

大阪維新の会 枚方市議会議員団　大濱暢祐

絵本の読み聞かせをする保育士

質問　保育士不足解消や離職防止のため、正規の常勤保育士等が1年間勤務した際に月額1万円、年間最大12万円を市独自に支給しているが、4年度は何名分を支給したのか。

答弁　4年度の支給対象は902名で、3年度から4名減少しており、非正規職員の割合が高くなっていることも減少した要因の一つと捉えている。

要望等　安全な保育環境を提供する上で保育士の確保は最優先課題である。近年の物価高騰等の影響を踏まえるとともに、採用競合となる他市等と比較し、時流に見合う制度か、常にリサーチするよう要望する。

研修後の効果継続と職場でのアウトプットを

質問　職場外で行うデータアカデミー研修の実施目的・効果を聞く。

答弁　各部署の業務課題を題材に、所有するデータを利活用し、デジタル技術による業務効率化や市民サービス向上のため実施している。4年度は3部署で各種申請業務等の効率化について研修を実施し、提案された改善案が1部署で実現化した。過去3年間の提案に対する実現化率は40％で、その他も取組を進めている。

要望等　研修は、研修で得た効果の継続と職場でのアウトプットが重要である。フォローアップアンケート等で効果を測り、次の研修につなげる視点を持つよう要望する。

保護者の負担軽減と学校給食の早期無償化を

質問　学校給食費支援事業費を計上しているが、事業の実施目的を聞く。

答弁　コロナ禍等に伴う物価高騰時においても、市が補助することで保護者負担となる給食費を引き上げることなく、学校給食摂取基準に基づいた給食の提供を継続する目的で実施した。

要望等　保護者の負担軽減を図るとともに、給食無償化の算段をつけ、早期に示すよう要望する。

北部地域 浸水被害軽減のためきめ細かな雨水整備を

大阪維新の会 枚方市議会議員団　志甫直哉

楠葉雨水流入管整備工事の様子
（写真は楠葉中央交差点の地下）

質問　楠葉排水区下水道浸水被害軽減総合事業の工事内容及び進捗状況を聞く。

答弁　第69工区楠葉雨水貯留管整備工事は、地下に貯留量約2万㌧の雨水貯留管を設置するもので4年度に完成した。また、第70工区楠葉雨水流入管整備工事は、道路上にあふれた雨水を貯留管に流入させる施設を設置するもので、完成した施設から供用を開始し、浸水被害軽減に努めている。

要望等　北部地域の被害軽減のため、貯留施設とともに、きめ細かな雨水管整備の実施も要望する。

高齢者福祉タクシー料金補助対象者の拡充を

質問　高齢者福祉タクシー基本料金補助事業の対象者、利用者数及び延べ利用回数について聞く。

答弁　同事業の対象者は65歳以上の高齢者で要介護1から5と認定され、かつ日常生活自立度がB、Cに該当しており、世帯の生計中心者の市民税所得割額が12万円以下の世帯に属する者である。また、4年度利用者数は103人で、延べ利用回数は1147回である。

要望等　同自立度がAの高齢者も一定の見守り等支援が必要であることから、同事業を拡充し、対象とするよう要望する。

地域と共に進める視点で学校規模適正化の推進を

質問　学校規模等適正化事業として統合された禁野小学校が開校し、児童、保護者、教職員にアンケートを実施したというが、その結果について聞く。

答弁　アンケートの回答率は9割以上と多くの声を聞くことができ、その内容から学校統合により教育環境が向上していることがうかがえる結果であった。

要望等　同事業については、子どもたちの学習面、成長面での課題解消、さらにまちづくりの観点も重要であるため、地域と共に進めるという視点を忘れないよう要望する。

2・3面 用語の解説

＊1　レスパイト支援…乳幼児や障害者、高齢者などの要介護者を在宅で介護している家族の精神的・身体的疲労を軽減するため、一時的に介護の代替を行う支援のこと。

＊2　総合型放課後事業…留守家庭児童会室、枚方子どもいきいき広場、放課後オープンスクエアの3事業を総合的に運営する事業のこと。

＊3　街区…市駅周辺再整備では、枚方市駅周辺を①街区から⑤街区までの5つのエリアに定め、再整備を進めることとされている。各街区の位置については左図のとおり。

＊4　ネーミングライツ…人の多く集まるスポーツ施設や文化施設等に企業名や商品名をつける権利のこと。施設所有者は命名権を企業等に付与することで資金を得ることができ、命名権を獲得した企業は広く企業名等をPRすることができる。

＊5　デフスポーツ…聴覚障害のある人が行うスポーツのこと。

＊6　DX（Digital Transformation）…「ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でよりよい方向に変化させる」という概念で、新たな価値を創造することを目的に、デジタル技術の駆使によって既存の枠組みを変化させること。

点字議会報・声の議会報を発行しています

目の不自由な方に議会の活動を知っていただくため、「点字議会報」と「声の議会報」を発行しています。

送付を希望される方は、市議会事務局までお申し出ください。

また、「声の議会報」は市議会ホームページでもお聞きいただけます。

声の議会報はこちらから←

→お申込みはこちらから

本会議を傍聴する際、御希望があれば手話通訳者を配置します。

○費用負担なし　○事前申込みが必要

お申込みの方法等については、市議会ホームページの「市議会傍聴の案内」を御覧ください。

希望者に手話通訳者を配置します